

- 一 犯罪ノ構成ノ要素ヲ圖解セヨ(大四、中央、大場講師)
- 二 犯罪トハ何ソヤ(三九、外交)(大ニ、日本、山岡講師)

第二節 犯罪ノ主體

- 一 犯罪人ノ細別處置ヲ論スヘシ(大ニ、日本、山岡講師)
- 二 法人ハ犯罪ノ主働者タリ得ヘキヤ否ヤヲ論スヘシ(大ニ、法政)
- 第三節 犯罪ノ客體
- 一 犯罪行為ヨリ生シ又ハ之ニ因リ得タル物トハ何ソ(四二、判檢。辯)

第二章 犯罪ノ主觀的要件及ヒ客觀的要件

第一節 行為

第一款 行為ノ概念

- 一 處罰條件カ到來スルト否トカ犯罪行為成立ニ及ホスヘキ關係如何(大ニ、日本、三浦講師)
- 二 作為ト不作爲トノ區別如何(三八、東大)
- 三 相當因果關係 (Theorie der adeguaten Verursachung. Théorie de la causalité adéquate) トイフ觀念ヲ論評セヨ(四二、東大、牧野助教授)
- 四 純正不作爲、不純正作為ノ區別如何(四四、關西、山田學士)
- 五 犯罪ノ成立ニ必要ナル一般ノ條件ヲ列記スヘシ(四五、中央、泉二講師)

第二款 行為

- 六 甲アリ乙ヲ殺サント欲シテ之ヲ殺リタル後既ニ死シタルモノト誤認シ罪述ヲ蔽ハンカ爲メニ乙ノ家ニ火ヲ放チタルニ乙ハ其火ノ爲メニ死亡シタリ甲ヲ殺人既遂犯トシテ論スルコトヲ得ルヤ(四〇、法學協會討論題泉二學士出題)
 - 七 因果關係ノ中斷ヲ論セヨ(四一、高文、東大、法政、中央)
 - 八 行為ト結果トノ因果關係ヲ論ス(四一、高文、論)
 - 九 犯罪ノ著手(四二、東大、法政、各牧野學士)
 - 一〇 行為ノ因果關係ヲ明セヨ(大五、外交)
 - 一一 不作爲ノ因果關係ヲ説明スヘシ(大五、日本、泉二博士)
 - 一二 相當因果關係トハ何ソヤ(大五、法政、牧野博士)
- 第三款 不行爲
- 一 不作爲犯ニ未遂罪アリヤ若シアリスレハ其著手時期如何(大五、高文)
 - 二 甲者乙者ヲ殺害セント欲シ河ノ上流ニ於テ之ヲ河中ニ投棄セリ下流ニ於テ漁業ヲ爲シ居リタル丙者々々投下シタル網ヲ引上ケタルニ何者カ網中ニ入ル者アリ熱視スルニ平素甲者ト同シク之ヲ嫉メル乙者ナリシヨリ尙ホ多少ノ體溫アリ全ク死シ居ラサルモ網ヲ外シテ元ノ如ク流シ遣リタル爲メ乙者ハ遂ニ死亡セリ
 - 三 右甲丙ノ責任如何(大三、京大、勝本教授)
 - 三 不作爲ト其因リテ生シタリト認ムヘキ結果トノ間ノ因果關係ノ有無ニ關スル學說ヲ略

叙セヨ(大四、立命、勝本講師)

- 四 不作爲犯ヲ説明スヘシ(大四、高文)
- 五 不作爲ハ罪ト爲ルヘキ行爲ナリヤ理由ヲ付シテ説明ス可シ(大三、中央、谷野講師)
- 六 不作爲犯ノ性質及其未遂狀態ヲ論セヨ(三九、判檢、辯)
- 七 不作爲犯トハ何ソヤ(三八、東大)
- 八 甲者河中ニ墜落セリ乙者其自己カ河中ニ垂下シ置キタル綱ニヨリテ助命センコトヲ妨ケンカ爲メ急ニ之ヲ引揚ケタリ茲ニ於テ甲ハ遂ニ死亡セリト謂フ乙者ノ責任如何(四二、東大、勝本教授)
- 九 不行爲ニ因ル犯罪ノ成立ヲ論スヘシ(大正元、判檢)

第二節 違法

第一款 違法ノ概念

- 一 犯罪構成要件タル違法ノ性質ヲ論スヘシ(大ニ、判決)
- 二 盜賊某アリ毎夜甲ノ倉庫ニ入り諸般ノ物品(中ニ貴重品モアリ)就中貯藏ノ葡萄酒ヲ竊取ス甲百方防禦ノ道ヲ講スルモ計策皆齟齬ニ屬セリ茲ニ於テ甲被盜ノ恐アル葡萄酒ノ若干瓶中ニ毒物ヲ混入シ置キタリ盜賊某例ニ依リ之ヲ知ラス盜取シテ家ニ持歸リ數本ヲ他人ニ賣却シ殘餘ヲ自用シ盜賊某ハ勿論之ヲ買受ケテ飲用シタル他人モ亦皆中毒ニヨリ死亡セリト云フ甲ノ責任如何(四三、京大、勝本教授)
- 三 門衛某、深夜圍牆ヲ踰越シテ邸内ニ忍入ラントスル者アルヲ目撃シ之ヲ銃殺シテ屍體

ヲ驗シタルニ計ラサリキ該家ノ主人ナリシト云フ門衛ノ處分如何(四四、京大、勝本教授)

第二款 緊急防衛

- 一 正當防衛ト緊急避難ノ異同ヲ説明スヘシ(大五、判檢)
- 二 正當防衛ヲ論ス(大ニ、外交)
- 三 緊急防衛ト緊急避難トノ異同ヲ説明スヘシ(大四、中央、泉二講師)
- 四 盜賊アリ連夜倉庫中ヨリ葡萄酒數瓶ツツヲ竊取ス被害者ハ番人ヲシテ徹夜看守セシムルニ非ラサレハ如何ニ嚴重ナル鎖鑰ニテモ之ヲ防クコト能ハサルヲ以テ終ニ倉庫入口ニ自發銃ヲ裝置シ尙葡萄酒數瓶ニ毒藥ヲ入レ犯人ヲ毒死セシメ以テ盜難ヲ免レントス賊ハ二人ニシテ一人ハ自發銃ノ爲メニ即死シ他ノ一人ハ竊取シタル葡萄酒ヲ持歸リ其一瓶ヲ傾ケ毒死ヲ遂ケタリ處分如何(四一、私立大學聯合討論題泉二學士出題)
- 五 如何ナル行爲ニ對シ正當防衛ヲ行フコトヲ得ルヤ(三八、日本)
- 六 正當防衛ノ要件如何(三九、中央)
- 七 正當防衛ノ規定ヲ説明セヨ(四三、京法、勝本博士)
- 八 緊急防衛(正當防衛)ニ關シ已ムヲ得サルニ出テタル行爲トハ何ソ(四三、東大、泉二講師)
- 九 正當防衛ノ理由トナルヘキ事情アリト誤信シテ加害行爲ヲ爲シタル者ノ處分如何(四四、判檢、辯)
- 一〇 正當防衛ヲ論シ併セテ緊急狀態トノ異同ヲ辯明セヨ(四三、高文)

- 一 狂者ニ對シ緊急防衛ヲ爲シ得ルヤ(四四、中央、泉二講師)
- 二 緊急防衛行為ノ要件及性質如何(四五、關西、山田學士)
- 三 緊急防衛ト緊急避難トノ區別(四五、明治、岡田講師)
- 四 正當防衛ヲ論セヨ(四五、京法、勝本博士)

第三款 緊急避難

- 一 被害者ノ承諾ニヨル犯罪行為ノ效力如何(大ニ、明治)
- 二 左ノ一及二ノ中其一ヲ撰ヒテ解答セヨ(大ニ、中央、大場講師)
 - イ 過失ノ意義ヲ成ルヘク完全ニ略解スヘシ
 - ロ 緊急防衛 緊急避難以外ノ違法阻却原因中最モ重要ナルモノヲ列擧スヘシ
- 三 イ 刑法ノ目的及實質ヲ略解セヨ(大ニ、中央、大場講師)
 - ロ 從來ノ刑法ニ比シ我舊刑法ノ三大特色ヲ略示スヘシ
- 四 正當防衛ト緊急避難トノ異同ヲ論スヘシ(三八、中央)
- 五 緊急狀態 說明セヨ(四四、京法、勝本博士)
- 六 危険ナル場合ニハ救助スヘキ約束ノ下ニ乙者ヲ水中ニ游泳セシメタル甲者約ニヨリ乙者ノ危険ヲ救ハントシタルニ甲者ノ父丙危難ノ甲ニ及ハンコトヲ悞レ強テ之ヲ防止シテ作爲セシメサリシカ爲メ乙者ハ遂ニ溺死セリト云フ右甲丙ノ處分如何(四五、京大、勝本教授)

第三節 責任

第一款 概論

- 一 法人ノ犯罪能力ヲ說明スヘシ(大五、日本、泉二博士)
- 二 責任無能力ノ概念ヲ說明シ心神喪失者ト心神耗弱者トノ區別ニ論及スヘシ(大三、辯)
- 三 甲者溺死セントス乙者之ヲ救助セントスル際丙者殺意ヲ以テ乙者ヲ抑止シタル爲メ甲者ハ終ニ死ニ至リタリ丙者ノ處分如何(大三、中央、谷野講師)
- 四 因果關係ノ意義及ヒ其中斷スル場合ヲ說明スヘシ(大四、高文)
- 五 獵夫甲田畑ニ在ル鳥ヲ撃タントセシニ友人乙農夫某ニ當ルノ恐レアリ危険ナレハ止ムヘシト忠告セリ然ルニ甲ハ若シ乙ノ肩ヲ借リテ狙ヒナハ過ナカルヘキヲ以テス茲ニ於テ乙ハ甲ニ肩ヲ貸シ銃身ヲ之ニ置キテ狙ハシメ居リタルニ小虫(蚊ノ如キ)ノ來リテ足部ヲ刺スアリ暫時ハ忍耐シ居リタルモ苦痛ニ堪ヘス遂ニ少シク足ヲ動カシタル爲メ甲ノ發シタル彈丸ハ農夫某ニ當リ之ヲ死ニ致セリ不知甲乙ノ責任如何(大三、京大、勝本教授)
- 六 十四歳未滿ノ者ヲ罰セサル理由ヲ說明スヘシ(大三、日本)
- 七 刑法第三十九條第二項(心神耗弱者ノ行為ノ其刑ヲ減輕ス)ノ規定ヲ論セヨ(大三、東大牧野教授)
- 八 責任ナル文學ニ關シ三個ノ意義ヲ簡單明瞭ニ別記セヨ(大五、中央、大場講師)
- 九 未成年犯罪者ニ刑ヲ加フルノ當否ヲ論ス(三九、高文、論)
- 一〇 因果關係ト責任トノ限界ヲ略説スヘシ(四〇、法政)

- 一一 刑法ニ於ケル責任ノ基礎觀念ヲ論ス(四四、法政)
- 一二 自己ノ無意識舉動ヨリ發生シタル結果ニ付キテ刑責ヲ負フヘキ場合アリヤ(四五、東大、泉二講師)

第二款 故意

- 一 未必ノ故意ト過失トノ區別如何例ヲ舉ケテ之ヲ説明スヘシ(大五、辯)
- 二 犯罪ノ故意トハ何ソヤ(大五、明治、岡田博士)
- 三 甲アリ「此土手登ルヘカラス登ル者ハ警察犯處罰令ニヨリ處斷セララルヘシ」トノ制札ノアルコトヲ知ラス土手ニ登レリ有罪ナルヤ否(大二、京法、勝本講師)
- 四 偶然ノ意思ト過失トノ區別ヲ論セヨ(大三、京大、勝本教授)
- 五 故意ノ定義ヲ掲ケテ故意ノ意義ヲ略示セヨ(大三、中央、大場講師)
- 六 故意ト過失トノ區別ヲ問フ(大二、明治)
- 七 未必ノ故意トハ何ソ。過失トノ差異如何(三九、中央)
- 八 犯意(犯罪ノ故意)ノ成立要件ヲ概説スヘシ(三八、中央)
- 九 法律ノ不知ハ如何ナル範圍ニ於テ故意ヲ阻却スルカ(四三、東大、泉二講師)
- 一〇 犯意ヲ論ス(四四、京大、勝本教授。四〇、高文、論)
- 一一 未必ノ故意ト過失トノ區別スル標準ヲ説明スヘシ(大正元、高文)

第三款 錯誤

- 一 法律ノ錯誤ト犯意(故意)トノ關係ヲ論スヘシ(大五、高文)
- 二 錯誤ハ犯罪行為ニ如何ナル影響ヲ及ボスヤ(三八、外交)
- 三 法定ノ犯罪事實ニ關スル錯誤ト故意トノ關係ヲ説明スヘシ(三八、日本)
- 四 「法律ヲ知ラサルヲ以テ罪ヲ犯ス意ナシト爲スコトヲ得ス」(第三八條第三項參照)トノ規定ノ意義及其立法上ノ理由ヲ論セヨ(四一、東大)
- 五 不知又ハ錯誤カ犯意ニ及ボス復讐ヲ説明セヨ(三九、京大)

第四款 過失

- 一 故意ト過失トノ區別ヲ論ス(三八、法政)
- 二 如何ナル程度ノ注意ヲ缺タトキハ刑法上過失アリト謂フヲ得ルカ(四〇、中央、法政)
- 三 過失犯ハ不作爲ニ因リテ犯スコトヲ得ルヤ(四五、法政)

第三章 犯罪ノ體様

第一節 犯罪ノ既遂及ヒ未遂

第一款 通論

- 一 未遂犯、不能犯及中止犯トハ何ソ(三九、日本)
- 二 既遂罪ト未遂罪トノ區別スルノ標準(四五、東大、泉二講師)

第二款 未遂罪

- 一 中止罰ノ成立要件ヲ述ヘ其例ヲ舉ケヨ(大五、明治、岡田博士)
- 二 故障ノ要件ヲ列舉シ之ヲ説明スヘシ(大五、中央、林講師)

- 三 通常未遂罪ト中止犯トノ異同ヲ説明ス可シ(大二、高文)
- 四 犯罪ノ實行ノ意義ヲ説明シ未遂犯ノ性質ヲ論スヘシ(大三、判檢)
- 五 甲者瘖啞者ナシテ乙ヲ殺害スル決意ヲ爲サシメタル場合ニ於テ該瘖啞者ハ乙ニ對シ毒物ヲ施用シタルモ其後更ニ解毒劑ヲ服用セシメタルヲ以テ乙者死ニ至ラス甲者ノ處分ヲ論スヘシ(大二、東大、谷野講師)
- 六 中止犯ト缺效未遂犯ト異同ヲ論ス可シ(大二、法政)
- 七 未遂犯ト中止犯トノ區別(大三、法政)
- 八 中止犯ヲ説明スヘシ(大四、辯)
- 九 未遂ニ付テ左ノ諸點ヲ説明セヨ(大四、東大、牧野教授。大四、法政)
 - 1 何故ニ未遂ヲ罰スルカ
 - 2 何故ニ未遂減輕ヲ認ムルカ
 - 3 何故ニ中止ニ特例ヲ認ムルカ
 - 4 何故ニ未遂ヲ罰スル場合ヲ限定スルカ
- 一〇 中止犯ヲ論ス(三八、東大)
- 一一 未遂犯ノ觀念及其處分ヲ論セヨ(四〇、明治。日本)
- 一二 未遂罪トハ何ソ(四二、日本、島村講師)
- 一三 缺效未遂トハ何ソ(四四、中央、泉二講師)
- 一四 過失犯ニ未遂罪アリヤ(四四、東大、泉二講師)
- 一五 未遂犯ヲ論スヘシ(四五、法政。四〇、外交。三八、明治)

第三款 不能犯

- 一 不能犯ハ之ヲ罪スルコトヲ得ヘキヤ否ヤヲ論スヘシ(大二、日本、三浦講師)
- 二 不能犯ヲ論セヨ(大三、京大、勝本教授)
- 三 未遂犯ト不能犯トノ異同ヲ論セヨ(三九、明治)
- 四 未遂犯ト不能犯トノ關係如何(四〇、中央)
- 五 不能犯ノ意義及其處分ヲ論ス(四四、判檢)

第二節 共犯

第一款 共犯ノ概念

- 一 共犯ノ處分ニ關スル立法上ノ學說ヲ擧ケテ評論セヨ(四一、高文)
- 二 過失罪ノ共犯ヲ認ムルコトヲ得ルヤ(四〇、判檢。辯)
- 三 共犯ノ種類ヲ擧ケ其異同ヲ詳ニセヨ(附外國使臣ヲ教唆シテ罪ヲ犯サシタル者ノ處分(四二、京大))
- 四 正犯ト從犯トノ區別ヲ詳論セヨ(四二、京大、勝本教授)
- 五 教唆及從犯ヲ以テ加擔犯(從タル犯罪)ニ非ストスル學說ヲ論評セヨ(四二、東大、牧野助教授)
- 六 正犯ト從犯トノ區別ノ標準ヲ明ニセヨ(說例ヲ加ヘテ説明スヘシ)(四三、京大、勝本教授)

七 正犯從犯ヲ區別スル標準ヲ論スヘシ(四四、辯)
 八 他人ノ過失犯ニ對シテ共犯關係ヲ論スルコトヲ得ルヤ否ヤニ付キ所信ヲ述フヘシ(四五、中央、泉二講師)

九 正犯ト從犯トノ區別ニ關スル主觀主義ノ學說ヲ說明評論セヨ(四五、京大、勝本教授)

第二款 間接正犯及ヒ共同正犯

- 一 間接正犯ヲ論ス(大四、京大、勝本講師。大三、日本)
- 二 間接正犯ハ如何ナル犯罪ニモ之ヲ認ムルコトヲ得ヘキカ(大三、京大、勝本教授)
- 三 暗啞者ヲ勸誘シテ人ヲ殺サシメタル者ノ處分ヲ論ス可シ(大五、中央、谷野講師)
- 四 共同正犯教唆犯及從犯ノ意義及其區別ヲ說明セヨ(四〇、明治)
- 五 間接正犯トハ何ゾ。間接正犯ヲ認ムヘキ場合ヲ舉ケヨ(三九、中央)
- 六 間接正犯ノ觀念ヲ說明シ且之ヲ論評セヨ(四一、東大)
- 七 間接正犯トハ如何(四四、關西、山田學士)

第三款 教唆犯

- 一 甲者アリ乙者ヲシテ丙者ヲ殺害セシメンコトヲ教唆シタルニ乙者自ラ手ヲ下サス更ニ丁者ヲ教唆シテ丙者ニ殺害セシメタリ甲者ノ處分如何(三九、五大學聯合討論題牧野學士出題)
- 二 教唆者カ被教唆者ノ犯罪ノ結果ノ發生ヲ防止シタル場合ニ於テ教唆者ノ處分如何(三九、日本)

三 甲、乙ニ對シ丙ヲ殺スコトヲ教唆セリ後乙カ之ヲ實行スルニ方リ甲モ亦實行ヲ共同セリト云フ甲ノ處分如何(三九、東大)

四 教唆犯ノ成立要件如何(四三、關西、山田學士)

五 教唆罪ト教唆ノ教唆罪トノ異同ヲ論シ且其何レモ未遂罪ヲ成立シ得ヘキヤ否ヤヲ論究スヘシ(大三、法政)

六 教唆犯ノ概念ヲ說明スヘシ(四三、法政、泉二講師)

第四款 從犯

一 教唆及從犯ヲ說明セヨ(大二、關西、山田學士)

二 正犯ト從犯トノ區別如何(大二、京大、勝本教授)

三 從犯トハ何ゾ(四五、明治、岡田講師。四三、中央。明治、各牧野學士)

第三節 數罪(併合罪及ヒ累犯)

一 強盜罪ト恐喝罪トノ區別(大五、東大、牧野教授)

二 次ノ場合ニ於テ刑法第五十四條ノ適用アリヤ否ヤヲ說明スヘシ(大五、東大、牧野教授)

イ 火ヲ放チテ人ノ住居ニ使用スル家屋ト(一〇八)人ノ住居ニ使用セサル家屋(一〇九)トヲ燒燬シタリ

ロ 甲乙兩者ノ名義ヲ以ツテ文書ヲ偽シタリ

ハ 一發ノ彈丸ヲ以ト甲乙兩者ヲ傷害シタリ

ニ 一發ノ彈丸ヲ以テ甲者ノ物ト乙者ノ物トヲ損壞シタリ
 三 左ノ諸例ニ對シテ刑法第五十四條ノ適用アリヤ否ヤヲ説明セヨ (大四、東大、牧野教授)

1 火ヲ放チテ人ノ住居スル家屋ト人ノ住居セサル家屋トヲ燒燬シタリ

2 借用主甲保證人乙ノ名義ヲ以テ金員借用證ヲ偽造シタリ

3 暴行ヲ加ヘテ人ヲ恐喝シ財物ヲ奪取シタリ

4 甲其保管ニ係ル甲乙丙共有ノ財物ヲ横領シタリ

四 累犯ヲ論スヘシ (大二、日本、山岡講師)

五 巡查アリ令狀ニ由ラスシテ非現行犯人甲者ヲ逮捕スルニ際シ甲者ノ友人乙者之ヲシテ捕縛ヲ免レシムル爲ム已ムヲ得スシテ巡查ヲ傷害シタリ本件ニ於ケル處分如何 (大二、東大、泉二、講師)

六 刑法第五十四條ノ意義ヲ説明セヨ (大二、京大、勝本教授)

七 刑法ニ於ケル同一ノ罪名ノ意義ヲ説明シ連續犯ヲ論スヘシ (大二、辯)

八 連續犯ヲ論セヨ (大四、法政)

九 連續犯ノ異同ヲ論スヘシ (大二、法政)

一〇 牽連犯ニ付テ左ノ事項ヲ明カニセヨ (大三、東大、牧野教授)

a 牽連犯ノ要件

b 牽連犯ハ一罪ナリヤ數罪ナリヤ

c 牽連犯チ一罪ナリトスルト數罪ナリトスルニ依リ生スル實際上ノ差異

一 法律ニ於テ罰セサル正當防衛行爲ト緊急避難行爲トノ主要ナル差異ヲ明示スヘシ (大三、法政)

二 一罪數罪ヲ區別スル標準如何 (大二、關西、山田學士)

三 併合罪ト累犯トノ異同ヲ説明スヘシ (大四、中央、泉二講師)

四 想像上ノ數罪俱發 (三九、法政)

五 連續犯ノ觀念及其要件 (四一、法政。中央)

六 連續犯ヲ説明シ其例ヲ示セ (三八、法政)

七 連續犯トハ何ソ連續犯トハ何ソ (三八、判檢。辯)

八 罪ノ個數ヲ定ムル標準如何 (四一、判檢。辯)

九 一罪ト數罪トノ區別ノ標準ヲ説明スヘシ (四二、外交)

一〇 連續犯トハ何ソヤ (四三、中央。明治、各牧野學士)

一一 累犯トハ何ソヤ (四三、外交)

一二 牽連犯ヲ論スヘシ (大正元、辯。四三、東大、牧野助教授)

第四章 犯罪ノ分類

一 中止犯ト未遂犯トノ區別 (四二、日本)

二 詐僞犯ト不詐僞犯トノ區別如何 (四三、關西、山田學士)

第五章 犯罪ノ時及ヒ犯罪地

- 一 犯罪ノ場所ヲ定ムル標準ニ關スル學說ヲ擧ケテ之ヲ論評セヨ(大四、京大、勝本講師)
- 二 時ニ關スル刑法ノ效力範圍ヲ論セヨ(大四、立命、勝本講師)
- 三 刑法第六條ヲ釋明セヨ(四二、東大)
- 四 時ニ關スル刑法ノ效力ヲ論ス(四二、高文。東大、牧野助教授)
- 五 犯罪ノ場所ヲ定ムル標準ニ關スル學說ヲ列擧シテ之ヲ說明セヨ(四三、京大、勝本教授)
- 六 時ニ關スル刑法適用ノ範圍ヲ論セヨ(四四、京法、勝本博士)
- 七 犯罪ノ場所及時ヲ定ムル標準ニ關スル學說ノ主ナルモノヲ擧ケテ之ヲ論セヨ(四五、京法、勝本博士)

第三編 刑罰論

第一章 刑罰ノ種類

- 一 刑罰ノ實質ヲ略示セヨ(大三、中央、大場講師)
- 二 附加刑ノ種類ヲ列擧シ之ヲ說明セヨ(三九、東大)
- 三 自由刑ノ種類ヲ示セ(三九 明治)

第二章 刑罰ノ適用

第一節 通論

- 一 自首ノ要件及其效力(四〇、日本)
 - 二 自首減刑ヲ論ス(三八、東大)
 - 三 刑罰裁量ノ標刑如何(四一、東大)
 - 四 沒收スルコトヲ得可キ物ノ種類如何(四二、日本、泉二講師)
 - 五 沒收シ得ヘキ物ヲ列擧シテ之ヲ說明スヘシ(四三、京法、勝本博士)
 - 六 犯罪ノ情狀(四三、東大、牧野助教授)
- 第二節 刑ノ執行猶豫
刑ノ執行猶豫(大三、法政)

- 二 刑ノ執行猶豫トハ何ソヤ(大五、法政、牧野博士)
- 三 刑ノ執行猶豫ニ付テ次ノ諸點ヲ説明スヘシ(大五、東大、牧野教授)
 - イ 何故ニ刑ノ執行猶豫トイフ制度ヲ設ケタルカ
 - ロ 罰金刑ニ刑ノ執行猶豫ヲ認メサル理由
 - ハ 刑ノ執行猶豫ノ言渡ノ取消アルコトナクシテ猶豫ノ期間ヲ經過シタル時ハ如何ナル效果アルカ(大五、東大、牧野教授)
- 四 刑ノ執行猶豫ヲ論ス(四〇、高文)
- 五 刑ノ執行猶豫トハ何ソヤ(四一、東大。明治)

第三章 刑罰ノ執行

第四章 刑罰ノ消滅

- 一 刑ノ免除事由ヲ説ク可シ(大五、中央、谷野講師)
- 二 犯罪不成立ト刑ノ免除ト刑ノ執行ノ免除トノ區別ヲ問フ(四一、東大)

第四編 刑法各論

第一章 總論

- 一 暴行ノ意義ヲ説クヘシ(大ニ、東大、谷野講師)
- 二 左ノ熟語ヲ説明スヘシ(四二、中央。明治、各牧野講師)
 - 一 燒燬
 - 二 誣告
 - 三 財物
 - 四 横領
- 三 不動産ニ對スル竊盜罪強盜罪及ヒ詐欺取財罪ノ成立ヲ説明セヨ(四二、東大、牧野助教)
- 四 次ノ諸語ヲ説明セヨ(四二、東大、牧野助教)
 - 一 暴動
 - 二 燒燬
 - 三 墮胎
 - 四 横領
- 五 左ノ問題中其一ヲ擇ヒテ答案ヲ附スヘシ(四三、京大、勝本教授)

- 一 左ノ各項ニ付キ説明ヲ爲スヘシ
 - イ 權利義務ニ關スル文書圖畫ト事實證明ニ關スル文書圖畫トノ區別
 - ロ 猥褻ノ文書圖畫其他ノ物トハ如何ナルモノヲ云フヤ
- 二 傷害罪ノ構成要素ヲ説明セヨ
- 六 次ノ諸例ニ於テ犯罪ノ成立如何ヲ論セヨ(四三、東大、牧野助教授)
 - A 犯罪人カ自己ノ被害事件ニ關シ人ヲシテ偽證セシメタル場合
 - B 人ヲシテ其受託物ヲ自己ニ賣却セシメ之ヲ買受ケタル場合
 - C 婦女ヲシテ自己ニ密賣淫ヲ爲サシメタル場合
- 七 左ノ文字ノ意義ヲ説明セヨ(四三、高文)
 - イ 偽造罪ノ所謂文書
 - ロ 恐喝
 - ハ 贓物
- 八 罰セラルヘキ無形偽造ヲ舉示シ其客體ヲ明カニセヨ(四五、法政)
- 九 強要罪ト之ニ類似ノ犯罪トノ異同ヲ辯セヨ(四五、京大、勝本教授)

第二章 皇室ニ關スル罪

- 一 不敬罪ヲ論ス(大ニ、京大、勝本教授)

第三章 内亂ニ關スル罪

- 一 内亂ニ關スル罪(刑法第七十七條)ニ所謂暴動ト國交ニ關スル罪(刑法第九十條同第九十一條)ニ所謂暴行トノ差異ヲ問フ(大四、立命、富田講師)

第四章 外患ニ關スル罪

- 一 日本ニ在住スル外國人ノ交戰國ニ軍機ヲ漏泄シタルトキハ如何ニ之ヲ處分スヘキカ(三八、東大)

第五章 國交ニ關スル罪

第六章 公務ノ執行ヲ妨害スル罪

- 一 公務員ノ職務ノ執行ヲ妨害スル罪ヲ説明セヨ(大ニ、京法、勝本講師)
- 二 稅務官吏アリ甲者ノ宅ニ臨ミ其密造シタル濁酒入ノ徳利ヲ發見シ將ニ之ヲ差押ヘントシ未タ徳利ニ手ヲ觸レサルニ先チ甲者ノ從兄乙者ハ證憑湮滅ノ目的ヲ以テ右ノ徳利ヲ破壊シテ濁酒ヲ流失セシメタリ乙者ノ行爲ハ公務執行妨害罪又ハ證憑湮滅罪成立スルヤ否ヤ(大ニ、明治)
- 三 職權濫用ニ出テタル公務執行ヲ妨害スル者ノ處分如何(大ニ、日本、泉二講師)

第七章 逃走ノ罪

第八章 犯人藏匿及ヒ證憑湮滅ノ罪

- 一 犯罪人甲アリ乙ヲ教唆シテ自己ヲ藏匿セシメタリ甲乙ノ處分如何(三八、辯)
- 二 被告人ヲ幫助シテ其證憑ヲ湮滅セシメ又ハ被告人ノ教唆ニ因リ其證憑ヲ湮滅シタル場合ニ於テ被告人幫助者及實行者ノ處分如何(大元、高文)

第九章 騷擾ノ罪

- 一 騷擾罪(刑法一〇六條)ノ性質ヲ詳論セヨ(大二、關西、中西學士)
- 二 騷擾罪ノ構成要件ヲ説明スヘシ(大二、日本、泉二講師)
- 三 騷擾罪トハ何ソ(四二、日本、牧野講師)
- 四 多數衆合シテ暴行ヲ爲シ因テ殺傷、燒燬、毀棄、損壞等ノ結果ヲ生シタル場合ノ處分如何(四四、關西、富田學士)

第十章 放火及ヒ失火ノ罪

- 一 他人ノ承諾ヲ得テ現ニ人ノ住居セス人ノ現在セサル其所有ニ屬スル建物ヲ燒燬シ依テ公共ノ危險ヲ生セシメタルモノノ處分如何(大五、明治、岡田博士)

二 左ノ場合ヲ説明セヨ(大五、法政、草野學士)

- イ 人ノ現住スル家屋ヲ燒燬スル目的ヲ以テ之ニ隣接スル人ノ現住セサル家屋ニ放火シタルニ其隣接家屋ノミヲ燒燬シテ目的トスル人ノ現住セル家屋ニ及ハサリキ何罪ヲ以テ問擬スヘキヤ
- ロ 人ノ遺失セル物品ヲ所有物ナリト信シ窃盜ノ意思ヲ以テ之ヲ持チ去リタル者アリ如何ニ處分スヘキヤ
- 三 放火罪ノ既遂ノ時期如何(大五、關西、宮本學士)
- 四 交番所ヲ破壞シ其材料ヲ燒燬シタル者ハ如何ニ之ヲ處分スヘキカ(三八、東大)
- 五 火ヲ放チテ無權利者ノ住居シタル自己ノ家屋ヲ燒燬シタル者ノ處分如何(四〇、判檢、辯)
- 六 放火罪ハ如何ナル時期ニ既遂ト爲ルヤ(四一、法政、中央)
- 七 放火罪ノ觀念ヲ説明セヨ(四一、東大)
- 八 他人ヲ教唆シテ自己一人ノ住居現在スル家屋ニ放火セシメタル者ノ處分如何(四三、東大、泉二講師)
- 九 十四歳以下ノ幼者ト共謀シ之ト共ニ幼者ノ家屋ニ火ヲ放チテ燒燬シタル者ノ處分如何(四四、京大、勝本教授)
- 一〇 自己ノ所有ニ係ル空家ナリト信シテ或家屋ヲ燒燬シ因テ公共ノ危險ヲ生シタルニ其家屋ハ事實他人ノ所有ナリキ右犯人處分如何(四四、關西、富田學士)

一一 放火罪ノ既遂未遂ノ區別如何(四五、京法、勝本博士)

第十一章 溢水及ヒ水利ニ關スル罪

第十二章 往來ヲ妨害スル罪

第十三章 住居ヲ侵スノ罪

- 一 家屋ノ貸貸權消滅シタルニ拘ラス尙強テ從來ノ住居ヲ繼續セントスル貸借人アリ貸借人之ヲ怒リ自ラ其住居ニ臨ミ家屋ノ明渡ヲ請求シタルモ貸借人ハ此ノ如キ請求ハ公ノ手續ヲ以テス可キモノナリト主張シ却テ貸借人ノ其場所ヲ立去ランコトヲ要求セリ貸借人ハ益々貸借人ノ不當ヲ責メ其場所ヲ立去ラス古貸借人ハ刑法第三百十條(住居ヲ侵ス罪)ノ罪責ヲ負擔スヘキカ(大四、立命、富田講師)
- 二 住居ヲ侵ス罪ノ概念ヲ説クヘシ(大四、中央、谷野講師)
- 三 賃借權消滅シタルニ拘ハラス尙強テ從來ノ住居ヲ繼續セントスル者アリ、賃借者之ヲ怒リ賃借者ノ拒絕アルニ拘ハラス其住居ニ立入り以テ賃借者ノ退去ヲ要求セリ右賃借者ノ刑法上責任如何(四四、關西、富田學士)

第十四章 祕密ヲ侵スノ罪

- 一 信書開披罪ノ已遂トナルヘキ時期ヲ論シ左ノ問題ニ付解答ヲ與フヘシ
學生甲友人乙ノ下宿ニ到リタルニ乙ハ他出中ニテ乙ノ机上ニ丙女ヨリ乙ニ宛テタル祕密ノ封書アリタリ甲ハ乙丙ノ關係ヲ疑ヒ好奇心ニ驅ラレ其ノ封書ヲ披讀セント決意シ封緘ヲ除去シ正ニ之ヲ讀ミ下サントセリ其ノ際恰モ乙歸リ來リ驚キ甲ノ手ヨリ信書ヲ奪ヒ取り以テ甲ヲシテ之ヲ閱讀スルコト能ハサラシメタリ甲ハ信書開披ノ既遂ノ責任ヲ負フヘキカ(四三、關西、富田講師)

第十五章 阿片煙ニ關スル罪

第十六章 飲料水ニ關スル罪

第十七章 通貨偽造ノ罪

- 一 偽造貨幣ヲ行使シテ因テ財物ヲ得タル者ノ處分如何(大五、辯)
- 二 通貨偽造罪及文書偽造罪ニ於ケル行使竝ニ印章偽造罪ニ於ケル使用ノ意義ヲ問フ(大五、關西、宮本學士)
- 三 偽造通貨ヲ行使スル罪及交付スル罪ノ成立要件ヲ説明スヘシ(大三、日本)
- 四 貨幣偽造罪ノ法益ヲ論セヨ(四二、日本)
- 五 偽造貨幣ヲ行使スル罪ト之ヲ交付スル罪トノ罪ニ如何ナル區別アルカ(大三、中央、泉)

二講師

六 債務者アリ債務ヲ履行スヘキ金銭ヲ有セス履行請求ノ爲メ來宅シタル債權者ニ對シ「金銭ハ準備シ置キタルモ事務多忙元利計算ノ餘暇ナクハ他日來宅セラレタシ」ト陳シ尙ホ債權者ニ其ノ陳述ノ虛偽ナラサルヲ誤信セシムルヲ豫テ偽造シ置キタル通貨ヲ取出シ之ヲ債權者ノ面前ニ於テ自己ノ家族ニ交付シ「此ノ金銭ヲ與ノ金庫ニ收メ置ケヨ」ト命シタリ此ノ有様ヲ見タル債權者ハ豫期ノ如ク債務者ニ金銭ノ準備アリト誤信シテ他日ヲ期シテ出テ行キタリ該債務者ハ偽造通貨行使ノ責任ヲ負フヘキカ(四三、關西、富田學士)

七 偽造ノ通貨ヲ行使スルトハ如何ナル行爲ヲ謂フカ(四三、東大、泉二講師)

八 偽造貨幣ニ付キ行使罪ト交付罪トノ區別ヲ明カニセヨ(四四、東大、泉二講師)

九 貨幣偽造ト變造トノ區別如何(四五、關西、山田學士)

第十八章 文書偽造ノ罪

一 死者若クハ虛無人名義ヲ以テスル文書偽造罪ノ成否ヲ論ス(大五、法政、草野學士)

二 文書偽造ノ意義ヲ論スヘシ(大ニ、法政)

三 文書偽造罪ノ成立ニハ實害ノ發生ヲ要件トスルヤ否ヤ(大ニ、明治)

四 刑法上文書ノ意義ヲ問フ(大四、關西、宮本法學士)

五 虛無ノ人ノ名義ヲ以テ文書ヲ作成スルハ文書偽造ナリヤ(大五、中央、谷野講師)

六 次ノ判決ヲ批評セヨ(大三、東大、牧野教授)

畫家ノ作成スル繪畫及ヒ之ニ題スル贊ノ如キハ愛玩娛樂ノ用ニ供セラレル美術品ニシテ該條項(刑法第一百五十九條第一項)ニ所謂文書ニアラスト雖モ其作成者カ之レニ某時某所ニ於テ之ヲ書寫シタル旨ヲ記載シ署名捺印ヲ爲シタル時ハ其記載ハ畫贊ノ作成ノ真正ナルコトヲ表明シタル文書ニ外ナラス故ニ行使ノ目的ヲ以テ之ヲ偽造スルニ於テハ該條項ノ文書偽造罪ヲ構成スルモノトス(大三、東大、牧野教授)

七 文書ノ無形偽造ヲ論スヘシ(大ニ、日本)

八 文書ノ偽造變造及毀棄ヲ區別スル標準ヲ説明スヘシ(大ニ、判檢)

九 文書偽造罪ト印章偽造罪トノ關係ヲ説明スヘシ(大三、日本)

一〇 虛無ノ人ノ名義ヲ以テ文書ヲ作成スルコトハ以テ文書ノ偽造ナリト爲スコトヲ得ルカ(大四、法政)

一一 虛偽ノ事實ニ付登記申請ヲ爲シ登記官吏ヲシテ登記簿ニ不實ノ記載ヲ爲サシメタル者ノ處分如何(三八、法政)

一二 他人ノ偽造シタル文書ヲ拾得シテ行使シタル場合ヲ論セヨ(三九、法政)

一三 他人カ行使スルニ至ルヘキコトヲ知テ偽造文書ヲ知情ノ他人ニ交付シタル者ノ處分(四一、東大)

一四 人事訴訟手續法ニ依リ裁判所カ禁治產宣告ノ決定ヲ新聞紙上ニ公告シタルトキハ其

公告文ハ官文書ナリヤ又ハ私文書ナリヤ

新聞紙ノ編輯人ニ於テ右公告文掲載ノ囑託ヲ受ケサルニ拘ラス之ヲ掲載シタルトキハ文書偽造ヲ以テ論スルコトヲ得ルヤ(三九、日本)

一五 文書偽造罪ニ關シテ左ノ諸點ヲ論セヨ(四〇、東大。法政)

一 官文書ト私文書トノ區別

二 死者ノ名義ヲ以テ作成シタル文書

三 他人ノ代理人タル名義ヲ以テ作リタル文書

一六 文書偽造罪ノ概念ヲ説明スヘシ(四一、法政。中央)

一七 權利義務ニ關スル文書事實證明ニ關スル文書(四二、東大、牧野助教授)

一八 刑法ノ所謂權利義務ニ關スル文書ト事實證明ニ關スル文書トノ區別ヲ明ニシ且右二者ト其何レニモ屬セサル文書トナ例解セヨ(四二、高文)

一九 公務員カ私法上ノ關係ニ付キ作成シタル文書ハ之ヲ公文書(法文ノ所謂公務員ノ作ルヘキ文書)ト謂フヲ得ルヤ(四四、中央、大場講師)

二〇 文書偽造ノ意義ヲ論スヘシ(四四、法政、宮本學士)

二一 文書偽造罪構成ノ要件ヲ擧ケテ之ヲ説明セヨ(四四、京法。四三、京大、各勝本博士)

二二 他人名義ヲ偽造シ其名下ニ有合印ヲ捺捺シタル者ノ責任如何(四五、關西、山田學士)

二三 文書偽造罪ノ本質ヲ論シ併セテ其成立ニ實害ヲ必要トスルヤ否ヤヲ説明ス可シ(四五、明治、三木講師)

五、明治、三木講師)

第十九章 有價證券偽造ノ罪

第二十章 印章偽造ノ罪

一 甲アリ山陽外史ノ印章山陽外史子成子成氏ヲ偽造シテ之ヲ乙書家ニ交付セリ茲ニ於テ乙ハ右印章及ヒ落款ヲ用キ山陽ノ書ヲ偽造シ之ヲ情ヲ知リタル骨董商丙ニ賣却セリ知ラス右甲乙丙ノ處分如何(大ニ、京大、勝本教授)

二 印章偽造トハ何ソヤ偽印ノ使用トハ何ソヤ(四一、明治)

三 印章ノ偽造トハ印類ノ偽造ナリヤ印影ノ偽造ナリヤヲ論ス可シ(四三、明治。法政。中央、各牧野學士)

第二十一章 偽證ノ罪

一 證人タル資格ナキ者ハ偽證罪ノ正犯實行犯タルコトヲ得サルカ(三九、日本)

二 偽證罪構成ノ要件ヲ擧ケテ之ヲ説明セヨ(四四、京大、勝本教授)

第二十二章 誣告ノ罪

一 甲者乙丙二人ノ居合セタル處ニ於テ丁ト爭論ノ結果怨ヲ抱キ丁ヲ誣告セリ、於茲乙者

其事件ノ證人トシテ裁判所ニ於テ宣誓ノ上證言スルニ當リ豫テ甲ヨリ受タル依頼ノ趣旨ニ從ヒ誣告ノ事實ト同意ノ陳述ヲナシ續テ甲及ヒ自己ノ主張スル所カ虛偽ナルコトヲ丙ノ爲メニ證明セラルルヲ虞レテ丙ヲ傷害セリ、乙ノ處分如何竝ニ其理由ヲ述ヘヨ(大ニ、關西中西學士)

第二十三章 猥褻姦淫及ヒ重婚ノ罪

- 一 猥褻トハ如何ナルモノヲ云フヤ(大ニ、京法、勝本講師)
- 二 第七十五條所謂猥褻ノ文書圖書其他ノ物トハ如何ナルモノヲ云フヤ(四三、京法、勝本博士)

○參考 第七十五條、猥褻ノ文書、圖書其他ノ物ヲ頒布若シクハ販賣シ又ハ公然之ヲ陳列シタル者ハ五百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス販賣ノ目的ヲ以テ之ヲ所持シタル者亦同シ

- 三 強姦脅迫罪ノ性質ヲ說明シテ強盜罪トノ差異ヲ論究セヨ(四五、法政)

第二十四章 賭博及ヒ富籤ニ關スル罪

- 一 賭博ト富籤トノ區別ヲ說明セヨ(大五、外交)
- 二 賭博罪ノ概念ヲ說ク(四〇、中央)
- 三 賭博ノ性質如何(新刑法執レニ依テ解答スルモ可ナリ)及賭博ト富籤トノ差異如何(四

一、高文)

- 四 博戲ト賭事トノ差異ヲ說明スヘシ(四二、外交)
- 五 賭博ト富籤トノ區別如何(四四、京法、勝本博士)

第二十五章 禮拜所及ヒ墳墓ニ關スル罪

第二十六章 瀆職ノ罪

- 一 收賄罪ヲ論ス(大三、京大、勝本教授)
- 二 官吏職務上ノ囑託ヲ受ケ其代價トシテ其婦女ヲ妾ト爲スコトヲ約シタルモノハ如何ニ處分スヘキヤ(三八、明治)
- 三 官吏賄收罪ノ要素ヲ論ス(三九、東大)
- 四 收賄罪ヲ論セヨ(四二、日本、牧野講師)

第二十七章 殺人ノ罪

- 一 乙者自殺セントシテ甲者ニ囑託シ自己ニ對シテ毒物ヲ施用セシメタリ然ルニ其後甲者ハ乙者ニ對シ解毒劑ヲ飲用セシメタルヲ以テ乙者死ニ至ラス甲者及乙者ノ處分ヲ論スヘシ(大ニ、東大、谷野講師)
- 二 甲者乙者ヲ殺害セント欲シ之ニ毒物ヲ服用セシメタルモ後悔悟シ乙者ニ罪狀ヲ首服シ

且少解毒藥ヲ與ヘテ其服用ヲ乞ヒタルニ乙者之ヲ承諾セシモ風ト他ノ藥品ト取違ニテ之ヲ服用シタル爲メ乙者ハ遂ニ死亡セリ甲者ノ處分如何(大二、京大、勝本教授)

三 甲、乙ヲ殺害セント欲シ之ニ毒藥ヲ飲マシメタルモ直ニ中心悔悟シ乙ノ子丙ニ情ヲ告ケ且之ニ解毒藥ヲ與ヘ託スルニ乙ニ飲マシメ以テ其生命ヲ救ハンコトヲ以テシタリ然ルニ丙之ヲ諾シタルニモ拘ラス後更ニ父ノ死ニ因リ遺産ヲ相續スルノ利ナルヲ思ヒ約ニ違ヒテ藥ヲ與ヘス茲ニ於テカ乙遂ニ死亡セリ甲丙ノ處分如何(三九、京大、勝本教授)

四 甲、乙ヲ殺害セントシ毒藥ヲ飲マシメタルモ後中心悔悟シ被害者乙ニ首服シ且之ニ解毒藥ヲ與ヘ其服用ヲ乞ヘリ然ルニ乙ハ恰モ自殺セント欲セシ際ナルカ故ニ寧ロ希望スル所ナリトテ却テ被告ノ行爲ヲ感謝シ解毒藥ヲ斥ケテ死亡セリ甲ノ處分如何(三九、京大、勝本教授)

五 殺人罪ヲ論セヨ(四二、京大、勝本教授)

六 甲者乙者ヲシテ自己ヲ殺害セシメンカ爲メ詐テ丙者ヲ殺スヘシト乙者ヲ教唆シ私カニ丙者ニ變裝シ乙者ヲシテ自己ヲ殺害セシメタリ然ルニ甲者ハ單ニ創傷ヲ被リタルニ止マリ死亡スルニ至サリシト云フ右甲乙ノ處分如何(四三、京大、勝本教授)

七 殺人ト致死ヲ説明セヨ(四五、中央、大場講師)

八 殺人罪、傷害致死罪及ヒ過失致死罪ノ異同ヲ説明スヘシ(四五、東大、泉二講師)

第二十八章 傷害ノ罪

一 傷害罪ノ要素ヲ論スヘシ(大三、法政)

二 傷害ニ至ラサル程度ノ暴行ヲ加フル意思ヲ以テ他人ヲ毆打シタルニ意外ノ重傷ヲ生シタル場合ニ於ケル加害者ノ處分如何(大二、高文)

三 傷害致死ト殺人罪トノ別ヲ論ス(大二、日本)

四 暴行ト傷害トノ異同及其關係ヲ論セヨ(大二、中央、菱谷講師)

五 傷害罪ノ成立ニ必要ナル犯意ヲ説明セヨ(大四、東大、牧野教授)

六 甲乙共謀シテ丁ヲ毆打スル際丙亦突然犯意ヲ生シ丁ヲ毆打シタル其後丁ハ一個ノ傷害ヲ受ケ居ルコトヲ發見シタリ甲乙丙ノ傷害ニ對スル罪責如何(大四、中央、谷野講師)

七 傷害罪ヲ論ス(四三、外交)

八 傷害罪ノ故意ノ内容ヲ詳論セヨ(四四、中央、大場講師)

九 傷害罪ノ故意ニ付キテ説明スヘシ(四四、東大、泉二講師)

第二十九章 過失傷害ノ罪

一 乙女カ丙男ト私通ノ結果妊娠シタル爲メ丁ノ教唆ニヨリ墮胎セント決定シ甲ニ其手術ヲ依頼シタル處甲之ヲ諾シ手術ヲ施シタルニ胎兒出生シ尙呼吸シ居リタルヲ以テ甲ハ乙女ト相談ノ上其胎兒ノ鼻ト口ヲ壓シテ之ヲ殺害シタリ甲乙丙丁ノ處分如何(大五、日本、泉二博士)

第三十章 墮胎ノ罪

第三十一章 遺棄ノ罪

第三十二章 逮捕及ヒ監禁ノ罪

第三十三章 脅迫ノ罪

- 一 暴行脅迫ノ刑法上ノ意義如何(大四、關西、宮本法學士)
- 二 甲者其妻ノ相姦者乙ニ對シ金若干ヲ贈與セスハ犯罪ヲ告訴スヘシト脅迫シタリト云フ右甲者ノ處分如何(四五、京大、勝本教授)
- 三 暴行又ハ脅迫ヲ以テ財産上不當ノ利益ヲ得ル犯罪ト脅喝ヲ以テ之ヲ得ル犯罪トノ差異ヲ辯シ例ヲ舉ケテ説明スヘシ(大五、辯)

第三十四章 略取及ヒ誘拐ノ罪

第三十五章 名譽ニ對スル罪

第三十六章 信用及ヒ業務ニ對スル罪

- 一 死者ノ名譽ヲ毀損スル罪ノ成立ヲ論スヘシ(大ニ、辯)

第三十七章 竊盜及ヒ強盜ノ罪

- 一 甲竊盜ノ目的ヲ以テ乙家ニ忍入りタルニ乙家ノ下婢ノ爲メニ認メラレ發覺ヲ恐レテ下婢ヲ殺害シ更ニ奥座敷ニ至リ財物ヲ風呂敷ニ包ミ立出ントスル際乙家主人目ヲ覺マシ逮捕セントシタルメ右ノ風呂敷包ミヲ抛付ケ一物ヲモ得スシテ逃走シ乙家主人ハ風呂敷包ヲ抛付ケラレタル爲メ轉倒シ火鉢ニ頭ヲ打チ重傷ヲ負ヒタリ甲ノ處分如何(大五、日本、泉二博士)
- 二 竊盜罪ノ主觀要素ヲ論セヨ(大五、明治、岡田博士)
- 三 竊盜罪ノ定義ヲ與フヘシ(大四、中央、大場講師)
- 四 領得トハ何ソヤ(大三、法政)
- 五 恐喝取財ト強盜罪トノ區別(大ニ、外交)
- 六 竊盜財物ヲ得テ引續キ搜索中被害者ニ覺知セラレタル爲メ強取ノ意思ヲ生シ脅迫ヲ物盜罪ノ目的物ヲ説明セヨ(大ニ、京大、勝本教授)
- 七 以テ更ニ財産ヲ交付セシメタリ其處分如何(大四、高文)
- 八 甲ナル者家宅ニ忍ヒ入り財物ヲ竊取セントスル際下婢ノ目ヲ覺セシモノアリ茲ニ於テ俄カニ自分ハ強盜ナリト稱シテ之ヲ強姦セリ右甲者ノ處分如何(大四、京大、勝本講師)
- 九 竊盜罪ノ目的物ヲ論セヨ(大三、京大、勝本教授)

- 一〇 竊盜罪ノ客體ヲ明ニシ廣ク財産上ノ利益ヲ其目的トスル能ハサル所以ヲ説明セヨ
(大ニ、中央、菱谷講師)
- 一一 竊取、強取、騙取トハ何ソヤ(大三、東大、牧野教授)
- 一二 財産ニ對スル罪ノ重ナル特質ヲ説明セヨ(大二、法政)
- 一三 財産ニ對スル罪ノ分類ヲ表ヲ以テ示ス可シ(大四、中央、大場講師)
(説明ヲ附スルヲ禁ス)
- 一四 竊盜罪ト強盜トノ區別ノ標準如何(四〇、日本)
- 一五 (イ)竊盜ト強盜 (ロ)強盜ト恐喝取財トノ區別ヲ論セヨ(三九、京大)
- 一六 制縛セラレタル者アルヲ發見シ其者ノ懷中ヨリ財物ヲ奪取シタル場合ヲ論セヨ(三九、法)
- 一七 父ノ所有物ニシテ他人ノ所持スル物ヲ竊取シタル者ノ處分如何(三八、法政)
- 一八 使用竊盜ヲ論セヨ(四一、明治)
- 一九 盜罪及詐欺取財罪ノ目的物ニ異同アリヤ否ヤ之カ理由ヲ詳述スヘシ(三九、判檢)
- 二〇 甲者乙者ヲ教唆シテ竊盜ヲ爲サシメ其贓物ヲ收受シタリ甲者ノ處分如何(四一、判檢。辯)
- 二一 竊盜(竊取)強盜(強取)及詐欺取財(騙取)ノ異同(四〇、東大)
- 二二 竊盜罪ニ關シ次ノ諸點ヲ説明セヨ(四〇、明治)
- 一 禁制品ヲ竊取スルハ竊盜罪ト爲ルヤ否ヤ

- 二 他人ノ鳥籠ヲ開キテ鳥ヲ飛去ラシメタル行爲ハ竊盜罪ト爲ルヤ否ヤ
- 三 一時使用シタル後返還スルノ意思ヲ以テ他人ノ所持物ヲ自己ノ所持ニ移シタル行爲ハ竊盜罪ト爲ルヤ否ヤ
- 二三 強盜殺人犯ヲ論セヨ(四二、中央、明治、各牧野講師)
- 二四 竊盜罪ヲ論セヨ(四二、京大、勝本教授)
- 二五 禁制品ニ對シテ竊盜罪ノ成立アリヤ否ヤヲ論ス可シ(四三、明治。法政。中央、各牧野學士)
- 二六 竊取ト騙取トノ區別ヲ説明スヘシ(四三、判檢。辯)
- 二七 物盜財ヲ得テ其證據ヲ湮滅セシメンカ爲メ直ニ所有者ヲ殺サント欲シ一刀ヲ加ヘ負傷セシメタルモ其者ハ死ニ至ラザリシ場合ノ處分如何(四四、辯)
- 二八 竊盜罪構成ノ條件ヲ列擧セヨ(四五、中央、大場講師)
- 二九 強盜致死罪ニ未遂罪アリヤ若シ有ラハ其未遂罪ハ如何ナル場合ニ存スルカ(四五、東大、泉二講師)

第三十八章 詐欺及ヒ恐喝ノ罪

- 一 財物ヲ領得センカ爲メ交互ニ詐欺及ヒ恐喝ノ手段ヲ施シ依テ其ノ目的ヲ遂ケタル者ノ處分如何(大五、判檢)
- 二 賣渡抵當ノ目的ヲ以テ自己ノ所有名義トナシタル他人ノ不動産ヲ第三者ニ賣却スル行

爲ハ如何ナル犯罪ヲ構成スルカ(大五、中央、谷野講師)

三 人ノ財物ヲ得ント欲シ之ヲ詐欺シテ其財産ヲ跡上ニ抛棄セシメ後之ヲ拾取シタリ其者ノ處分如何(大四、法政)

四 左ノ二例ニ於ケル甲及丙ノ處分如何ヲ説明セヨ(大四、東大、牧野教授)

一 甲其不動産ヲ乙ニ賣却シ未タ登記ナキ奇貨トシテ更ニ情ヲ知レル丙ニ賣却シ甲丙兩人ニ於テ之ヲ登記シタリ

二 甲其不動産ニ對シ乙ノ爲メニ抵當權ヲ設定シ未タ登記ナキ奇貨トシテ更ニ情ヲ知レル丙ノ爲メニ抵當權ヲ設定シ甲丙兩人ニ於テ之ヲ登記シタリ

五 不動産ニ對スル盜罪及詐僞取財罪ノ成立ヲ認ムルコトヲ得ルヤ(大二、東大、泉二講師)

六 竊盜罪ト詐欺罪トノ區別ヲ論スヘシ(大三、高文)

七 人ヲ欺罔シテ不正ノ利益ヲ得ル罪ニ付テ説明スヘシ(大四、高文)

八 左ノ諸例ニ付詐欺罪ノ成立アリヤ否ヤヲ論セヨ(大四、東大、牧野教授)

1 甲アリ乙ノ財物ヲ得ント欲シ乙ヲ欺罔シテ其財物ヲ棄テシメ後之ヲ拾得シタリ

2 甲アリ精神病者乙ヲ欺罔シテ其財物ヲ自己ニ贈與セシメタリ

3 甲アリ乙ヲシテ其財物ヲ自己ニ賣却セシメ之ニ對シテ相當ノ代價ヲ支拂ヒタリ

4 甲アリ乙ニ貸與シタル財物ヲ取戻ス爲メ明日更ニ貸與スル旨ヲ以テ乙ヲ欺キ乙ヲシテ其財物ヲ返還セシメタリ(大四、東大、牧野)

九 次ノ場合ニ於テ詐欺罪ノ成立アリヤ否ヤヲ説明セヨ(大四、東大、牧野教授)

イ 甲アリ債權者ヲ欺罔シテ履行延期ノ承諾ヲ得タリ

ロ 甲アリ債務者乙ヲ欺罔シテ債務ヲ辨濟セシメタリ

ハ 甲アリ人ヲ欺罔シテ其所有物ヲ抛棄セシメタリ

一〇 恐喝取財罪ト強盜罪トノ區別ヲ辯明セヨ(三九、高文)

一一 無錢飲食及無錢遊興(三九、高文)

一二 不作爲(消極行爲)ニ因ル詐欺取財罪ヲ論ス(三八、高文)

一三 不作爲ノ詐欺取財ヲ論ス(三八、明治)

一四 甲アリ乙ニ對シ其所有ノ不動産ヲ賣却シタリ然ルニ其後乙ヨリ訴訟ヲ以テ其土地ノ引渡ノ請求ヲ受ケタル甲ハ裁判所ニ對シ其賣買ノ事實ナシト申立テ終ニ勝訴ノ確定判決ヲ得ルニ至レリ知ラス甲ハ有罪ナリヤ否ヤ若シ有罪ナリトセハ其成立スヘキ犯罪ノ種類

及其既遂ノ時期如何(四一、東大)

一五 背任罪ノ成立要件ヲ説明シ甲者其所有スル不動産ニ付キ乙者ニ對シ抵當權ヲ設定シ未タ其登記ヲ經サル前更ニ之ヲ丙者ニ賣渡シタル行爲ハ背任罪ヲ構成スルヤ否ヤヲ論ス

ヘシ(大三、判檢)

一六 詐欺取財罪ノ構成ヲ論ス(四二、京大、勝本教授)

一七 次ノ諸例ニ於テ詐欺取財ノ成立如何ヲ論セヨ(四三、東大、牧野助教授)

A 人ヲ欺罔シテ其不動産ヲ自己ニ假裝的ニ賣渡サシメ之ヲ登記シタル場合

B 抵當權設定ノ證書ナリト欺罔シテ不動産賣渡證書ニ捺印セシメ之ニ基キテ賣買ノ登

記ヲ爲サシメタル場合

- 〇 他人ノ不動産賣渡證書ヲ偽造シ之ニ基キ賣買ノ登記ヲ爲シタル場合
- 一八 相手方ノ所有ニカカル未登記ノ不動産ヲ讓受ケタルモノカ擅ニ其不動産ヲ善意ノ第三者ニ賣却シ代金ヲ領得シタル場合ノ處分如何(四四、判檢)
- 一九 背任罪ノ構成要件ヲ説明ス可シ(四五、明治、三木講師)

第三十九章 横領ノ罪

- 一 業務上ノ横領罪ヲ説明スヘシ(大五、高文)
- 二 詐欺取財ト横領罪トノ區別ヲ論セヨ(大二、京大、勝本教授)
- 三 背任罪ト横領罪トノ關係ヲ論セヨ(大三、京大、勝本教授)
- 四 (一)恐喝罪ト(二)強盜竝ニ詐欺罪トノ區別ヲ説明セヨ(大四、京大、勝本講師)
- 五 甲者乙者ノ所持品ヲ不法ニ領得セント欲シ左ノ行爲ヲ爲シタリ其處分如何(大三、中央、泉二講師)
- 一 詐テ翌日返還ノ旨ヲ約シ其物ノ交付ヲ受ケテ逃走シタリ
- 二 現場ニテ其物ヲ一覽シタシト詐リ物ノ交付ヲ受ケテ逃走シタリ(泉二講師)
- 六 農夫カ耕作中其附近ノ畦畔ニ差置キタル煙草入ヲ遺失物ト思料トシテ之ヲ持チ歸リタル儘其届出ヲ爲ササリシ者アリ其者ノ處分如何(大四、辯)
- 七 横領トハ何ソヤ(大三、東大、牧野教授)

(參照) (刑法第百六十九條)、行使ノ目的ヲ以テ他人ノ印章若クハ署名ヲ使用シテ權利義務又ハ事實證明ニ關スル文書若クハ圖畫ヲ偽造シ又ハ偽造シタル他人ノ印章若クハ署名ヲ使用シテ權利、義務又ハ事實證明ニ關スル文書若クハ圖畫ヲ偽造シタル者ハ云々

- 八 (刑法第二百五十二條)、自己ノ占有スル他人ノ物ヲ横領シタル者ハ云々
公園ノ共同腰掛ノ上ニ一時人ノ差置キタル物品ヲ遺失物ト信シテ持歸リ其儘横領シタル者ノ處分如何(三九、東大)
- 九 甲者アリ乙者ヨリ官吏ニ贈與センコトヲ委託セラレテ受取リタル金錢ヲ自ラ消費セリ甲者ノ處分如何(四〇、高文)
- 一〇 不動産ニ對スル横領罪ノ成立(四二、東大、牧野助教授)
- 一一 横領罪ノ構成要件ヲ説明スヘシ(四二、判檢。辯)
- 一二 他人ヨリ委託セラレタル封書ノ封緘ヲ開キ在中ノ爲替券ヲ擅ニ領得シタル者ハ横領罪ヲ以テ論スヘキカ將々他ノ罪名ヲ以テ擬スヘキカ(四三、東大、泉二講師)
- 一三 横領罪ヲ論セヨ(四五、四三、京法、勝本博士。四四、高文)
- 一四 甲者アリ丙者ヲ教唆シ丙者カ乙者ヨリ寄託セラレタル物ヲ自己ニ賣却セシメタル上丙者ヲシテ乙者ニ對シ該品ハ盜難ニ罹リ亡失セリト主張シ其返還ヲ免レシメタリト云フ甲丙ノ處分如何(四五、京大、勝本教授)

第四十章 贓物ニ關スル罪

- 一 贓物タルノ情ヲ知ラスシテ物品ヲ竊盜犯者某ヨリ買取リタル者後其情ヲ知り贓品タルコトヲ告ケテ之ヲ乙ニ賣却セリ甲乙ノ處分如何(四二、京大、勝本教授)
- 二 贓物トハ如何ナル物ヲ云フヤ(四五、京大、勝本教授)
- 三 贓物ノ性質ヲ論スヘシ(大正元、判檢)

第四十一章 毀棄及ヒ隱匿ノ罪

- 一 他人ノ生育スル魚類ヲ殺スハ罪ト爲ルカ(三九、明治)
- 二 官吏ノ公證シタル文書ヲ毀棄シタル者ノ處分ヲ説ケ(三九、中央)
- 三 建造物損壞罪ト放火罪トノ區別ヲ明カニセヨ(四二、日本)

受驗須知 刑法附錄 終

大正六年三月十二日印刷
大正六年三月十五日發行

受驗須知叢書刑法與附一

定價金參拾錢

著 者 普文學會 森 了 造

發 行 者 葉多野 太兵衛
東京市神田區今川小路二丁目四番地

印 刷 者 白 土 幸 力
本郷區眞砂町三十六番地

印 刷 所 三 光 堂
本郷區眞砂町三十六番

發 行 所

電話本局九六四、九六五番
月替口 東京七四四七

清 水 書 店
東京市神田區今川小路二丁目四番地

不 許 複 製

275
901

16

珍袖

法 律 經 濟
受 驗 須 知 叢 書

本書ノ特色

受 驗
準 備 書

理 想
的 想

一	携	帶	至	便
二	組	織	斬	新
三	內	容	豐	富
四	學	說	網	羅
五	一	目	瞭	然
六	難	問	詳	說
七	叮	嚀	懇	切
八	文	章	平	易

終